

## **2010 年 3 月期 第 1 四半期決算 FAQ**

**Q1: 第1四半期(4-6月)の業績は期初想定と比べどうだったのか? 売上高の増収(前四半期比21%)に比べて、営業損益の改善が少なくないか?**

A1: 第1四半期の半導体売上高につきましては、前四半期(1-3月)比で21%増収の980億円となり、期初想定(前四半期比約15%増収)を上回る結果となりました。これは、ディスクリートを含む汎用製品やLCDドライバICが増収となったほか、自動車向け半導体が想定以上に好調だったことによるものです。

営業損益に関しましては、前四半期から大きく改善しましたが、209億円の損失となり、期初想定どおりの結果となりました。これは主に、前四半期における生産調整等の影響により、一時的に生産が追いつかなかったことによる影響でございます。

**Q2: 第2四半期(7-9月)の業績見通しはどうか?**

A2: 第2四半期の半導体売上高につきましては、第1四半期比で9%以上の増収を見込んでおります。引き続きディスクリートなどの汎用製品、LCDドライバICが好調であり、また自動車向け半導体も増収を見込んでおります。ブルーレイ関連商品などのデジタルAV向け半導体においても、売上が拡大する見込みです。

営業損益に関しましては、工場稼働が改善し、生産増による利益増が見込まれることなどから、利益の改善は見込まれるものの、約40億円の営業赤字となる見込みです。なお工場稼働率につきましては、第1四半期においては51%と低い水準に留まりましたが、第2四半期は65%強となる見込みであり、前四半期比で14%ポイント以上改善する見込みです。

**Q3: 足元の市況は改善に向かっているようだが、下期/通期の見通しについてはどうか?**

A3: 下期の見通しにつきましては、未だ不透明であります。市況は徐々に回復に向かっているため、業績が現在より悪化することはないと考えております。今後の受注状況を慎重に見極め、柔軟な生産体制を保つとともに、期初に発表いたしました固定費削減を確実に実行し、通期の営業黒字を目標といたします。

**Q4: ルネサス テクノロジ(以下、ルネサス)との統合契約締結が8月末と、当初発表より1ヶ月遅れたのはなぜか?**

A4: 当社とルネサスは、経営統合に向けて当初7月末を目処に統合基本契約の締結を目指しておりましたが、両社のグローバルな生産拠点および販売拠点を巻き込んだデューディリジェンス(企業価値の算定)に想定以上の時間がかかり、検討作業が若干遅れております。しかし、8月末の契約締結を目標に両社とも精力的な協議を行ってまいります。

以上